

NO.	項目	意見・質問・感想等	委員	回答
1	子どもの貧困について	阿部先生の講義をお聴きし、子どもの年齢があがるにつれ困難層が増加していること、また、貧困は「リスク」であり、貧困の状態にある子ども全てに問題があるわけではないが、中には重層的で複雑な課題を抱えているケースがあること、また、そういった課題が徐々に顕在化し、行政のサポートとようやく繋がるか…という頃には、その困難度がより増している状態となっていると感じました。栄養面、学習面、人間関係、親のメンタル、マルチリポートメント、子どもの自己肯定感、将来への希望など、中長期的見ても、さまざまな場面へ影響を及ぼしていると理解しました。	丸茂委員	-
2	子どもの貧困について	子どもにまつわる法律には「第一義的には親の責任」とまず書かれています。中野区の子ども子育て支援事業計画の基本理念にも当然のようにあります。私は、この言葉が子どもや子育て家庭の困りごとを見えにくくしている一因ではないかと考えています。また、「自分のことはなんでも自分でやれること」こそが「自立」であり、子ども時代ですら失敗することに不寛容な教育を多くの方が受けてきたこともあり、「困っている」「助けてほしい」ということは「だめなこと」「恥ずかしい」ことなのだと思います。子どもの権利条約、権利条例を基本の大前提に考えるのであれば、子ども子育てに関して、控えめに言っても「第一義的に親・家庭・社会の責任」であると、まずは行政から発信して欲しいと思います。「親・家庭が難しければ社会がサポート」というように順番があるのではなく、「親・家庭・社会が協同で子どもと一緒にサポート」という姿勢が、介護保険の運用で介護が社会化されてきたように、子育てが社会化されていく第一歩なのではないかと考えています。委員皆さまと意見交換が出来れば幸いです。	丸茂委員	今年度、子ども・子育て支援事業計画を改定し、新たに子どもに関する総合計画を策定する予定です。計画策定に係る検討の中で、改めて委員の皆様と議論させていただきたいと考えています。
3	子どもの貧困について	中野区内で、就学援助を受けている家庭数、子育て家庭向けに実施されている学習支援、配食サービスの現在の運用方法、またその利用者数等の実績について、データがあれば分かる範囲(公開できる範囲)で教えてください。	丸茂委員	別添(令和3年度教育要覧(抜粋))のとおり
4	子どもの貧困、人口動態について	阿部先生のお話しは大変勉強になりました。そして心が痛くもなりました。相対的貧困による子どもへの影響は、食事面だけでなく学習面、メンタル面にも非常に大きな影響を与えることがわかりました。早めに察知し、そのご家庭にあったサポートができたと思います。自覚症状がない、もしくは恥ずかしい理由で難しさを感じました。コロナ禍において地域イベントが減り、約束をしないと、連絡をしないと、会いにくい状況が続いております。月一のプチ祭りのような遊び場から、人と人との繋がりで何か発見できたという思いもあります。感染対策を講じながら地域行事復活に向けて、引き続き、町会さんには働きかけていく思いが強まりました。また、中野区の転出超過についての実態を知り、寂しくなりました。子育てしやすい街になる課題はいろいろありますが、ひとつひとつ好転するよう願うばかりです。いつもたくさん資料を用意していただき、丁寧に説明をいただきありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。	大橋委員	-
5	子どもの貧困について	「子どもの貧困」という問題は、一方的ではない様々な角度から考えていく必要があり、一筋縄ではいかない難しさがあると感じました。また、今回「貧困」をテーマに講演を拝聴したり、グループディスカッションをしたうえで、改めて、貧困関係なく、子どもたちには豊かな生活を送ってほしいと思いました。	永田委員	-
6	子どもの貧困について	「小学校高学年の困窮層」というのは、どのように割り出したものでしょうか。	永田委員	令和元年に実施した「中野区子どもと子育て家庭の実態調査」では、①低所得②家計の逼迫(公共料金や家賃の滞納、食糧の困窮経験など)③子どもの体験や所有物の欠如(子どもの体験や所有物などが、経済的な理由で欠如している)の3項目のうち、2つ以上に該当する場合を「困窮層」、1つに該当する場合を「周辺層」、いずれにも該当しない場合を「一般層」として分類しています。
7	子どもの貧困について	阿部先生のお話しは大変参考になりました。今現在の子ども達が抱えている問題に私たちはどの様に関わるべきか一緒に考えていけたらと思います。もう少し、お時間があれば良かったです。	大門委員	-